

食育だより H24.1



栄養教諭日記

今、多目的教室でランチルーム給食を行っています。掲示物のおせち料理「くわい」を見た児童が「揚げたくわいをお正月に食べたよ。」と話してくれました。私も、くわいは煮物ではなく給食同様「くわいのからあげ」にします。

今月は給食月間

「行事食」「給食週間」

平成21年度に本校の卒業生が考えた「ちくわのかきあげ」と「カキのみぞれわん」が、広島市の統一献立として採用され、25日水曜日に登場します。言語・数理運用科の時間に考えた「地場産物を使った広島らしい献立」が、皆実オリジナル給食としてだけでなく広島市の統一献立に取り入れられたことは、在校生が献立を考える際の励みになっています。

『いただきます』の意味を考えよう

みやざきブランド推進本部が作成したポスターを活用して

今月の給食目標は「感謝して食べよう」です。5・6年生では、「あなたは『いただきます』を忘れていませんか」というポスターや、『いただきます』は言わなくても心で感謝すれば良い」という事例をもとに感謝の気持ちについて、一人ひとりが考えています。

資料：みやざきブランド推進本部製作ポスター



～6年生の感想より～

- ・心で感謝しても口に出さなければ人には伝わらない。
- ・他人は心をよめないなので、声に出したほうがよい。
- ・命をもらっているから、心で思うだけでは足りないので声に出して言ったほうがよい。
- ・心で感謝しても言葉でも伝わらないことがあるので、声に出して感謝したほうがよい。
- ・作ってくれた人がいるのだから言葉にしたほうがよいと思う。

1～4年生では、「いのちをいただく」という本の読み聞かせをしています。「たくさん命をいただいて、私たちが生きている」ことを考える週間になればと考えています。

～私たちは食べ物を食べて生きている。生きることは食べること。
すべての食べ物は命だ。・私たちが命は、多くの命に支えられている。それを実感したときに、食べ物のありがたみが分かる。
食べ物を粗末にしてはならないと分かる。～ 本文より抜粋



「箸の持ち方指導」及び「箸の持ち方検定」

箸を上手に使うことは、ごはんを中心とした日本の食文化の伝承につながります。5・6年生の給食委員会児童による「箸の持ち方指導」を、10日から13日まで行いました。16日からは、箸検定をしています。箸のじょうずな持ち方ができ、動かすことができれば合格です。「委員会の児童の教え方がじょうず」と担任がほめてくださることで、励みにもなっているようです。



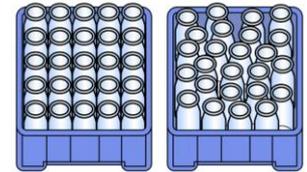
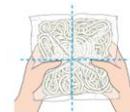
給食の歴史

給食週間は、給食の歴史や食文化を知る週間でもあります。5年生のあるクラスで「子どものころ、食べていた給食で、思い出に残っているもの」について調べたところ、次のような回答が寄せられました。

おうちの人の「給食調べ」の回答

<お父さん お母さん>

- ・鯨の竜田揚げ 鯨のオーロラソースかけが好きだった。
- ・袋入りのソフト麺をミートソースの中に入れて食べるのが、おいしく大好きだった。
- ・炊き込みごはんが、1か月に1回出るのが楽しみだった。
- ・わかめごはんは好きだった。
- ・箸ではなく、先われスプーンだった。
- ・牛乳に入れるミルメークがついていた。
- ・牛乳は、毎日びんだった。運ぶのがとても重かった。三角パックの牛乳になった。
- ・牛乳は夏場、冷たくなかったので飲みづらかった。
- ・呉市では、オレンジジュースが出ていた。
- ・小学校は食パン2枚だった。・ごはんはなかった。



<おじいちゃん おばあちゃん>

- ・ごはんは家から持って行き、学校でおみそ汁を作ってもらっていた。
- ・ごはんがなかったので、パンにカレーだった。
- ・1か月に1回ドーナツのおいしそうなおいが学校中に広がっていた。
- ・脱脂粉乳がおいしくなかった。

給食に関するたくさんの思い出があることを改めて感じました。将来、子どもたちにとって、皆実小の給食が良い思い出として残るよう、おいしい給食作りや食指導に一層努めていきたいと思います。